

# 河川水質調査概要版

	蛇の崎橋			旭川橋			大戸川橋			備考
P H	平均	最高値	最小値	平均	最高値	最小値	平均	最高値	最小値	水質基準
令和4年度	7.7	8.2	7.0	7.7	8.2	7.0	7.1	7.5	6.8	6.5～8.5
令和5年度	7.7	8.4	7.2	7.7	8.4	7.2	7.2	7.5	6.9	
令和6年度	7.7	8.1	7.3	7.3	7.6	7.0	7.2	7.5	6.9	
令和7年度	7.5	8.2	7.2	7.2	7.5	6.9	7.1	7.6	6.9	

B O D	平均	最高値	最小値	平均	最高値	最小値	平均	最高値	最小値	水質基準
令和4年度	-	0.6	0.5未満	-	0.6	0.5未満	-	0.8	0.5未満	3mg/l 以下 A類型 2mg/l 以下
令和5年度	-	0.6	0.5未満	-	0.6	0.5未満	-	1.0	0.5未満	
令和6年度	-	0.8	0.5未満	-	0.9	0.5未満	-	1.2	0.5未満	
令和7年度	-	1.1	0.5未満	-	0.8	0.5未満	-	1.9	0.5未満	

S S	平均	最高値	最小値	平均	最高値	最小値	平均	最高値	最小値	水質基準
令和4年度	2.5	6.0	1.0	2.5	6.0	1.0	6.7	17.0	2.0	25mg/l 以下
令和5年度	3.3	8.0	1.0	3.3	8.0	1.0	7.3	14.0	2.0	
令和6年度	3.3	6.0	1.0	6.8	12.0	3.0	8.7	18.0	2.0	
令和7年度	3.5	12.0	1.0	5.9	15.0	3.0	8.2	24.0	1.0	

D O	平均	最高値	最小値	平均	最高値	最小値	平均	最高値	最小値	水質基準
令和4年度	11.6	15.0	9.8	11.6	15.0	9.8	11.4	14.0	9.1	5mg/l 以上 A類型 7.5mg/l 以上
令和5年度	11.0	14.0	9.1	11.0	14.0	9.1	10.8	13.0	9.1	
令和6年度	10.9	13.0	9.1	10.9	13.0	8.9	10.8	13.0	8.9	
令和7年度	10.3	14.0	1.0	11.0	14.0	8.3	10.9	13.0	8.8	

大腸菌数	平均	最高値	最小値	平均	最高値	最小値	平均	最高値	最小値	水質基準
令和4年度	59.8	280.0	6.0	59.8	280.0	6.0	92.6	410.0	5.0	1000cfu/100ml以下 A類型 300cfu/100ml 以下
令和5年度	37.3	120.0	5.0	37.3	120.0	5.0	77.8	140.0	23.0	
令和6年度	52.0	110.0	5.0	77.8	220.0	1.0	88.8	170.0	17.0	
令和7年度	44.0	100.0	6.0	39.6	110.0	11.0	85.5	160.0	22.0	

・毎月採水(12ヶ月×3箇所)を実施。

○蛇の崎橋、旭川橋での水質(秋田県水質汚濁に係る環境基準の水域類型:B類型)

○大戸川橋での水質(秋田県水質汚濁に係る環境基準の水域類型:A類型)

P H	水素イオン指数又は水素イオン濃度指数と呼ばれ、物質の酸性、アルカリ性の酸性度の程度を表す。
B O D	生物化学的酸素要求量と呼ばれ、水中の有機物などが生物化学的に酸化・分解されるために消費される酸素の量を表したもので、BODの値が大きいほど、その水質は悪いと言える。
S S	浮遊物質又は懸濁物質とも呼ばれ、水質指標の一つ。水中に浮遊する粒径2mm以下の不溶性物質の総称。浮遊物質(SS)の多い水は、透視度が下がり藻類の光合成を阻害する。また、汚濁の進んだ水では有機態のSSの比率が高くなり、その有機物の分解に溶存酸素が消費されるため生態系に大きな影響を与える。
D O	溶存酸素量とは、水中に溶存する酸素の量のことであり、DOが減少すると水中の好気性微生物の活動が鈍り、自然浄化作用が働かなくなる。DO値が低いと水質が悪いこととなる。
大腸菌数	大腸菌は、人や動物の腸内に存在する細菌の一種で、ふん便とともに体外へ排出される。水から大腸菌が検出されるとは、その水がふん便で汚染されていることを示す。

※ 雄物川(皆瀬川・成瀬川含む)については、国土交通省湯沢河川国道事務所にて測定しております。  
横手川については秋田県においても測定しております。